

# 県内企業と交流、意識高める

小中学校の新学習指導要領では「持続可能な社会の創り手」の育成が課題とされたように、SDGs達成のため教育へ



の期待が高まっている。佐賀大学では、地域で活躍できる人材を育むキヤリア教育の一環で、SDGsに取り組む佐賀県内企業と交流する授業が行われている。

この講座は、理工学部の佐藤三郎名誉教授が担当し、地元中小企業を通じ地域の面白さを知り、人生設計に生かすことを目的とする。昨年からSDGsに向き合う企業を取り上げている。授業では、オンラインで企業・団体からのゲストによる解説と質疑応答、自由討論を行つた。

佐賀大学では、地域で活躍できる人材を育むキヤリア教育の一環で、SDGsに取り組む佐賀県内企業と交流する授業が行われている。

この講座は、理工学部の佐藤三郎名誉教授が担当し、地元中小企業を通じ地域の面白さを知り、人生設計に生かすことなどを目的とする。昨年からSDGsに向き合う企業を取り上げている。

討論についてはそれぞれの企業・団体で課題を設け、SDGsの視点でゲスト企業の強みと弱みを話し合つたり、SDGsへの取り組みについて個人ができること、企業ができることに分けて考へたり、学生自身の意見を発信した。受講前は、ほとんどの学生がSDGsへの知識がなかつた

若い木(間伐材を含む小径の木材)を製品に利用できる同社の「SKIN WOOD®」という特許技術は、森林の育成サイクルを早めることができ、林業の採算性向上や森林資源の負担軽減に役立つ。

講座を指導した佐藤さんも学生とともに学んだ部分もあると言い、「県内でもSDGsを積極的にビジネスに生かしている企業がある。学生にはSDGsの分野からも地元企業への関心を持つてもらいたい」と話す。SDGsをテーマにしたキヤリア教育講座は今夏、中村製材所などと協働した集中講義として予定している。

特に、持続可能な森林造りに基づく木材を取り扱う株式会社中村製材所(佐賀市諸富町)を

招いた授業では、同社が持つ特許技術のPRをSRに打ち出すなど、SDGsの視点で検討することに発展し、学生が知恵を出し合つた。招いた授業では、同社が持つ特許技術のPRをSRに打ち出すなど、SDGsの視点で検討することに発展し、学生が知恵を出し合つた。

講座で学生たちとオンラインで話す中村製材所の古賀晋一郎執行役員  
中村製材所長(右)と佐藤三郎名譽教授(左)